

普及施工情報化

GNSS拡大が追い風

国交省 適用範囲の増加期待

衛星測位システム（GNSS）として提供されるデータの種類と範囲の拡大が、情報化施工普及の追い風になりそうだ。国土地理院は今年10日から、全国の電子基準点で観測して提供する衛星測位データとして、従来の米国のGPSに加え、ロシアのGLONASSと日本の準天頂衛星を追加した。国土交通省はGNSSを利用した締め固め管理や重機の制御・操作支援を行う技術の一般化を目指しており、今回の提供データ拡大は大きな効果があると期待している。

電子基準点を利用することができ、これまで電子基準点から提供されていたGPS（リアルタイム・キネマティック）と呼ばれるだけの、ビルや樹木などの障害物がある都市部や山間部で衛星信号が受信しにくくなるケースがあった。利用者からは、他のGNSSにも対応するよう求める声が寄せられており、地理院は要望に応じてGLONASSや準天頂衛星による提供を追加した。これにより、測位可能な時間や場所の増大、安定性の向上が図れるようになり、国交省は「情報化施工の適用範囲を増やす上で大きな効果がある」と期待している。

（公共事業企画調整課）と期待している。GNSSを利用する測量技術を活用して重機制御などを行う情報化施工

1200カ所以上に地理院が設置した電子基準点を利用するネットワーク型RTKの場合、現場ごとの基地局を設ける必要がなくなるなどのメリットもある。東日本大震災の復興道路として整備が進む三陸自動車道の工事現場では、重機にGNSS受信機を取り付け、ネットワーク型RTKを利用した情報化施工が行われている事例がある。地場の建設会社による取り組みで、山間部という厳しい施工環境の中でも、GPS、GLONASS、準天頂衛星による観測データを用いて3次元マシニングコントロール（3DIMC）を使ったブルドーザーによる高精度な土工事を行っている。国交省は、こうした取り組みが全国でも展開されることを期待。情報化施工推進戦略（13～17年度）で提示した目標の達成に向け、GNSS利用技術の普及に弾みを付けたい考えだ。

【建設ICT】

- | | | | |
|------------|--------|--------|--------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 日刊工業新聞 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | 日刊工業新聞 |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | 日刊工業新聞 |
| 10. 中部経済新聞 | 11. 朝日 | 12. 毎日 | 日刊工業新聞 |
| 13. 建設通信新聞 | 14. 朝日 | 15. 毎日 | 日刊工業新聞 |
| ⑥建設工業 | | | |

平成25年 5月22日（朝）・夕）P1

建設工業新聞